

一般社団法人 所沢市医師会

所沢市医師会報

The Journal of the Tokorozawa Medical Association

2018年

1

新年号

- 追悼
- 年頭所感
- 私の診療
- リレーエッセイ（第8回）



第377号 目次

新井 昭雄先生 追悼	1
新井昭雄先生の思い出	有村 博行 2
年頭所感	
年頭所感	京谷 圭子 7
年頭所感	瀬戸 裕子 9
平成30年 年頭所感	水野 康司 10
明けましておめでとうございます！	猪俣 俊晴 12
年頭所感	酒見 文彦 13
年頭所感 (2018年戌年)「昭和医箴」	赤津 拓人 15
年頭所感 —憲法改正の国会発議をめぐって—	横山 俊次 17
今年は八十路を迎える	原邦 朋郎 20
年頭所感 大腸内視鏡検査についての雑談	駒嶋 敏郎 21
新しい年に思うこと	黒河 圭介 23
謹賀新年	平澤 秀人 24
年頭所感	三浦 昇悟 25
年頭所感	大場 忍 27
謹賀新年	小関 信之 29
年頭所感	三上 哲也 31
年頭所感 これからのこと	倉道 泰 32
年頭所感	矢北 幸 34
年頭所感 2018	齋藤 拓郎 35
日本の音	並里 まさ子 37
年頭所感	平林 多津司 38
年頭所感	廣瀬 恒 39
年頭所感	村上 光伸 40
年頭所感	森田 昌宏 41
年頭所感 IT元年：SNS (Social network service) を利用した広報情報委員会活動	今城 俊浩 42
シリーズ⑤ 私の診療 第2回	
呼吸器疾患と臨床研究について	濱元 陽一郎 44
会員サロン	
医局放浪顛末記	太田 英樹 48
リレーエッセイ ~第8回~	
埼玉西武ライオンズを勝手に語る	岩下 悅郎 57
学術	
所沢市医師会学術講演会	
抗炎症から考える運動器の薬物療法～肥満と痛み～	
東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部／麻酔科・痛みセンター 准教授 住谷 昌彦	63
肺高血圧症について	
西埼玉中央病院 循環器科 統括診療部長 橋本 浩一	66

シリーズ⑤ 私の診療

呼吸器疾患と臨床研究について

第2回

西埼玉中央病院 呼吸器科医長 濱 元 陽一郎

西埼玉中央病院呼吸器科の濱元です。所沢市医師会報へ4回シリーズで寄稿させて頂いております。今回は第2回「呼吸器疾患と臨床研究について」です。呼吸器疾患分類と頻度、更に呼吸器科専門医師数について述べ、臨床研究の必要性についてお伝えして参ります。

先ず、呼吸器疾患についてです。

呼吸器疾患として、どのような疾患が想像されるでしょうか？呼吸器診療を理解する上で、呼吸器疾患分類を把握する様に後輩へ指導しています（図1）。肺癌である悪性疾患から、細菌性肺炎や特殊な肺炎である肺結核などの感染症、アレルギー疾患では気管支喘息、COPDや間質性肺炎であるびまん性肺疾患などなど多岐にわたるのが呼吸器疾患です。その呼吸器疾患は実際どのような頻度であるのか、患者数推移でお示しします。主な死因別に見た死亡率（図2）¹⁾では、昭和56年以降、一貫して上昇を続けているのは、「がん」になります。がんの種類別でみると、女性では大腸癌について2位ですが、男性では、他の癌種を抜いて1位になっています。肺炎は平成23年より脳

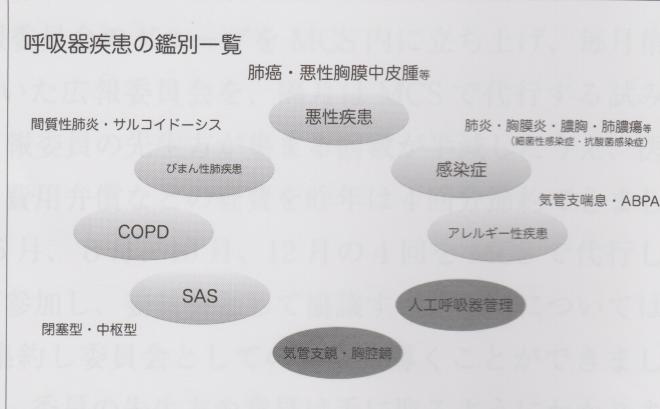


図1. 呼吸器疾患一覧

卒中を抜いて死因の3位なりました（図3）¹⁾。呼吸器領域疾患が、高齢化社会・死因別に見る疾患として割合が多くなっていることがわかります。

しかし、呼吸器科の専門医として診療する呼吸器専門医師は意外と少ない現状があります。内科メジャー3診療科である、消化器・循環器・呼吸器の専門医医師数を比較してみます（図4）。呼吸器専門医数を1とした場合、消化器は3倍、循環器は2倍もの専門医数と、診療科によって差があるようです²⁾。

なぜ、呼吸器診療は他の内科専門医に比べて少ないのでしょうか？いろいろな理由が考えられます。が、一つの理由として、消化器の内視鏡や、循環器でのカテーテル治療のように、ダイナミックな治療検査が呼吸器診療になかったことがあるかもしれません。しかし現在では、気管支内視鏡検査も超

音波を使用するまでに進歩し、肺癌の治療も分子標的治療薬や免疫療法など多種にわたってきました。今後、呼吸器診療は学術的にも、より興味を持てる診療科として変化、呼吸器専門医も増えてくると思われます。

しかし現状ではまだ死因別にみた疾患分類で上位を占めている呼吸器疾患ですが、実際の呼吸器専門として診療する医師が少ない状況があります。

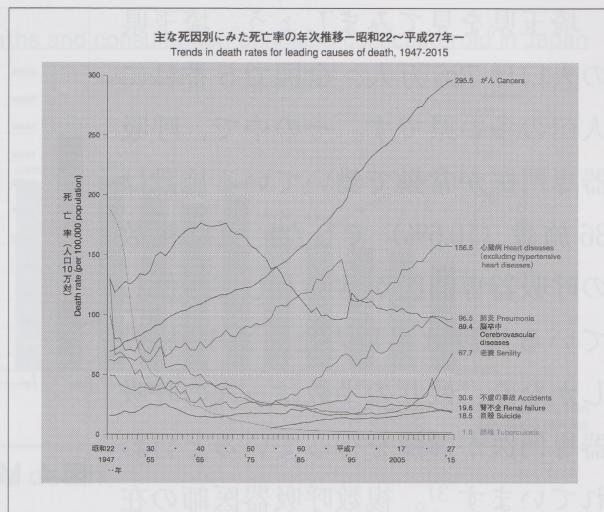


図2. 主な死因別にみた死亡率の年次推移

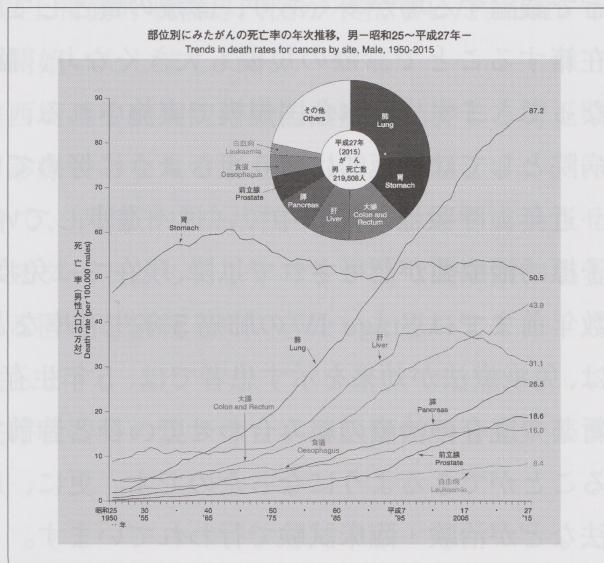


図3. 部位別にみたがんの死亡率の年次推移

埼玉県を見てみましょう。埼玉県の人口は726万人、全国で5番目に人口の多い県です。その中で、呼吸器専門医が常勤で働いている施設は36施設（10.6%）でした。更に複数の呼吸器専門医が常勤として診療している施設は半数のたった18施設しかなく、残りの半数は一人の呼吸器専門医が診療を行っていると言われています³⁾。複数呼吸器医師の在籍する呼吸器診療科は、最新の検査・治療に対し、カンファレンスや学会活動などで議論する場が多くあり、診療の質としても優位性が高まります。また、複数在籍することで診療の規模も大きくなり、臨床試験などへの組み入れも可能となってきます。日本全国規模で実施される、多施設共同臨床試験へも西埼玉中央病院としては積極的に取り組むように努めています。

近年、呼吸器診療の中で、日々進歩しているのが肺癌治療です。2002年に分子標的治療薬が認可されて以降、現在では免疫療法までが使用可能となりました。数年前まではStage IVの肺癌5年生存率など考えられませんでしたが、現在では、免疫療法が効果を示す患者では、5年生存率は16%にまで飛躍してきました。新薬や既存の治療の組み合わせで、ひと昔前では考えられなかった治療成績を得ることができるようになったのです。更に、新薬や新しいコンセプトでの投与方法などが治験・臨床試験で行われています。

一方、良性呼吸器疾患の代表格である、気管支喘息やCOPDは、吸入治療が主流となっています。吸入ステロイドなどが使用できるようになってから、気管支喘息での死亡が顕著に減少した歴史があります（図5）。そのため、外来診療での症状コントロールが主目的になりつつあります。

このように、呼吸器の疾患でも大きな病院施設で診療が必要な疾患と、症状コントロールが主目的で外来診療がメインである疾患が別れてきました。中には、重症喘息や重度のCOPD患者様もいるため、大きな病院での通院治療も必要な



図4. Major 内科専門医数

患者もおります。しかし、基本姿勢としては、病状が安定した良性の呼吸器疾患は診療所・クリニックの先生方へ逆紹介させて頂くように心掛けています。その際、より詳細な情報提供と呼吸器診療情報の提供をできるようにしております。

西埼玉中央病院には、過去15年以上常勤呼吸器専門医が不在でした。2016年7月より呼吸器診療（現在3名）を開始いたしました。

まだ僅か3名のスタッフですが、西埼玉中央病院呼吸器診療が発展し、埼玉県所沢市の皆さんにとって信頼される診療科となれるよう努力して参ります。

所沢市医師会のみなさんのご紹介で、西埼玉中央病院 呼吸器診療を成長させて育てて頂きたく思っております。スタートとして1年ですが、可能な限り患者さまを受け入れることで、信頼される医療を継続していきたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

次回3回目では、西埼玉中央病院呼吸器科の現スタッフ3医師の紹介を致します。

- 厚生労働省「我が国の人団動態 平成29年度」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/81-1a2.pdf>
- 日本専門医制評価認定機構
<http://www.japan-senmon-i.jp/hyouka-nintei/data/>
- 埼玉県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科副部長 倉島一喜先生の研究
より抜粋
- <http://www.geocities.jp/yamamrhr/ProIKE0911-175.html>

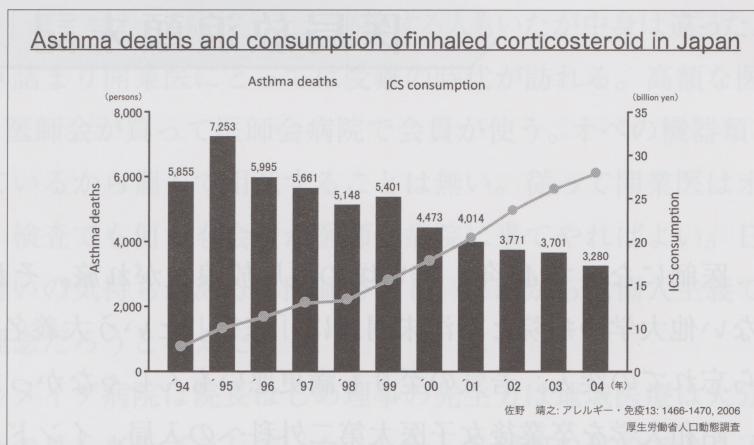


図5. asthma death